

第4回 沼津港振興基本計画策定委員会 議事概要

日 時：平成27年9月3日（木）午前10時00分～午後12時00分

場 所：プラサ ヴェルテ 402 会議室

出席者：

静岡県教育長 木苗 直秀（委員長）

横浜国立大学都市イノベーション研究院教授 高見沢 実

東海大学海洋学部環境社会学科教授 東 恵子

常葉大学経営学部経営学科教授 大久保 あかね

静岡県交通基盤部港湾局長 西園 勝秀（副知事代理）

沼津市副市長 井原 三千雄

事務局：静岡県交通基盤部港湾局港湾企画課

配布資料：

- ・次第
 - ・委員名簿
 - ・座席表
 - ・策定委員会設置要綱
 - ・沼津港みなとまちづくり推進計画（案）
 - ・沼津港みなとまちづくり推進計画（案）概要版
 - ・前回までの資料
-

■沼津港みなとまちづくり推進計画（案）について

（木苗）

- ・ 沼津には、文学・富士山・食と魅力が十分に備わっている。
- ・ 計画図面では平面での議論となるが、空間を立体でとらえることも重要である。
- ・ 沼津港の魅力の色を捉える。
- ・ 植樹を行うと、各世代で思い出を共有でき、リピーターにつながる。
- ・ 若者が集える施設が必要。

（井原）

- ・ 沼津港は市街地とリンクしている港である。内港北側の整備や防潮堤の緑化等によって周辺への回遊性が改善されると思うが、現在、市の施策としてはシャトルバスの支援や休憩所の設置しか実施していない。中心市街地への施策を増やしていけるよう意見をいただきたい。

(高見沢)

- 首都圏にある横浜港等の都市化された港とはまた違い、沼津港は首都圏から出て最初に目にする重要な地方港であり、環境の良さが際立っている。
- 沼津駅までの市街地をつなぐ軸を意識してほしい。将来的には鉄道高架化後の駅北地域ともつなぐ軸の形成が望まれる。
- 緊急時の防災避難経路の観点における記述がほしい。
- 北物揚場背後でバスを隠す工夫はいいアイデア。隠すだけでなく、港の風景に溶け込む工夫がほしい。計画平面図（案）の可動橋の絵については計画書レベルに合わせた表現にして欲しい。
- 可動橋の表現の方法は工夫が必要。はっきり図面に表示しなくてもいい。
- 沼津は昔から海があつての街だったはずだが海とのつながりが無くなってきている。戸田方面も含めて津市の全体を海が抱いているイメージが大切。市にがんばってほしい。

(東)

- 多目的広場では施設を配置することより、植栽等による千本松への景観の連続性の空間創出を検討願いたい。
- 回遊性の観点において、橋の設置に限らず、びゅうおや水際からの高低差の景観活用も重要である。
- エリアマネジメントの対象エリアは区域A、区域Bに分ける必要があるのか。
⇒（事務局）港湾（臨港地区等）と飲食店街の分けで表現をただけであるので、一体的となるよう表現方法は見直す。
- PDCAの取組み体制による見直しをエリアマネジメントの体制として組み込んで欲しい。
- エリアマネジメントに PFI・PPP 等を組み込んで、沼津モデルを創りだすことも検討して欲しい。
- 広域利用の観点で自転車の活用は重要。
- 港の機能は、日々大きく変化していくものであるので、計画のプロセスをデザインし、PDCAで回すことが重要である。
- ワークショップを始めてもう 5 年がたつ。“みなとまちづくり”に向かって充実した内容になった。是非実現してほしい。

(大久保)

- 地元の人が沼津港にくる工夫が必要。
- 値段やメニュー等、地元の人が求めるレベルでの食の魅力の提供が必要。営業時間も検討の余地がある。
- 内港西側の「新たな機能」については、既存の飲食店街と競合する形として相互にレベルを上げる環境を作り出してもよい。

- ・ エリアマネジメントの組織については、人選と事務局の運営努力が重要である。
- ・ シンポジウムをやって市民の気運を高めるのもいい。
- ・ エリアマネジメントのエリアが狭い気がする。文化施設といかにつなげるかを検討するべきである。
- ・ コンシェルジュ機能の拡充において、場所の問題もあるが、セミナールームを設置し、NPOの方々や若者（小・中・高校生等）が活動できる場を創出すれば人の集まる施策となる。
- ・ 沼津港を拠点としたバスルートの整備も手法としてあると思う。（全てのバスルートが必ず沼津港を通る、バスターミナルの整備等。）
- ・ 御殿場のアウトレットには関東方面からの客を中心に年間一千万人くる。それに対して、富士宮のイオンには県東部の地元の人を中心に 870 万人が訪れている。その何割かの地元客を引き込む可能性が沼津にはある。

■ 傍聴した地元の方々からの意見

（沼津魚仲買商協同組合 後藤理事長）

- ・ 沼津港にきている方々は、海の恵みを求めて来ている。
- ・ 市民の方々が沼津港に集まっていたのは、漁業関係者の仕事、西伊豆方面への生活物資の輸送、海水浴への船の利用等があったため。その機能をなくしてほしくはない。
- ・ ビジターバースを充実させることで、船の魅力が市街へも伝わる。そういった観点から可動橋は必要ないと感じた。
- ・ エントランスでのコンセルジュ機能は必要である。

（みなと商店街組合 原田副理事長）

- ・ 今回の計画を機に沼津港が一つのチームになることに期待したい。
- ・ みなと商店街で既に取り組んでいる渋滞問題の解決についての議論も進めていきたい。
- ・ 港に来る方々の大半は 83 番地のちょうちんや富士山の景観を写真に撮る。そのような観点から北側エントランスの緑化は是非お願いしたい。
- ・ 可動橋の設置は民間主導ということであるが維持管理の面からも難しいのでは。
- ・ びゅうおの入場料は 100 円であっても回遊性のネックとなる。周辺店舗利用者に無料券を配るような工夫があれば協力したい。

以上で、策定委員会の議論は終了。委員意見を踏まえて、「沼津港みなとまちづくり推進計画（案）」を微修正の上、パブリックコメントにかける。パブリックコメント終了後、11月に予定している有識者会議に諮り、正式に計画承認となる見込み。